

会 議 録

会議の名称	平成24年度 第5回 大内地域協議会
開催日時	平成25年3月21日(木) 午後2時～
開催場所	大内総合支所 大会議室
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	中村勝男 工藤榮 佐々木廣二 菊地敬作 鈴木久雄 大竹鉄男 阿部順子 東海林長子 堀隆一 佐々木耕一
会議次第 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 報告 (1)大内地域の学校統合問題について (2)平成25年度大内地域主要事業について 4. 閉会	
会議の経過	別紙のとおり

出席者名簿（30名）

委員(20名)		
1	会長	佐々木盛三
2	副会長	佐々木ハツ
3	委員	三浦 修
4	〃	石井 清
5	〃	佐々木良行
6	〃	伊藤 健
7	〃	佐々木浩
8	〃	佐々木多悦
9	〃	戸堀恵子
10	〃	佐々木文勝
11	〃	齊藤貞雄
12	〃	田口正夫
13	〃	布施隆子
14	〃	小嶋 宏
15	〃	佐々木正男
16	〃	小笠原良一
17	〃	伊藤直子
18	〃	富士盛久美子
19	〃	東海林重
20	〃	鈴木鋭一

職員(10名)		
1	教育委員会事務局 主幹兼教育総務課長	打矢郁良
2	大内総合支所長	伊藤 久
3	振興課 課長	松永 豊
4	市民福祉課 課長	山口光也
5	産業課 課長	佐々木高志
6	建設課 課長	佐々木藤悦
7	教育学習課 課長兼大内公民館長	菊地久昭
8	上川大内出張所 主席参事兼出張所長	星川 謙
9	下川大内出張所 主席参事兼出張所長	佐々木孝
10	事務局 主査	田口俊一

会議の経過

平成24年度 第5回大内地域協議会

平成25年 3月21日(木)

午後2時00分 開会

午後4時00分 閉会

1. 開会(進行:振興課 田口主査)

2. 会長あいさつ

●佐々木(盛)会長

昨日までは春が来たかのような天気でしたが、今日は一変して冬に逆戻りというような天候であります。このような状況の中、そしてお忙しい中、たくさんの方々にお集まりいただきまして誠にありがとうございました。

ご案内のとおり本日は学校統合問題、これは以前からお話申し上げておりましたが、大内地域学校環境を考える懇談会で最終決議があったものですから、その経緯等も含め、教育委員会より主幹兼教育総務課の打矢課長にお出でいただきましたので、状況をご説明いただきます。

それから、皆さんご承知のとおり議会が終了し、新年度予算等の議決がなされておりますから、大内地域の主要事業について支所担当からそれぞれご報告いただくということになります。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

●日程説明(振興課 田口主査)

3. 報告

- (1) 大内地域の学校統合問題について
- (2) 平成25年度大内地域主要事業について

●佐々木(盛)会長

それでは、大内地域の学校統合問題について打矢主幹よりご説明願います。

○大内地域の学校統合問題について説明

(教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長)

- ・これまでの大内地域学校環境を考える懇談会で方針を出した事項。

- ① 中学校の統合を優先的に進める。
- ② 統合にあたっては既存の校舎を活用する。→出羽中学校
- ③ 統合の時期は平成27年度開校を目標にする。

○出羽中学校に通学する場合のスクールバス運行計画案について説明

(教育委員会大内教育学習課 菊地課長)

●佐々木(盛)会長

只今、ご説明ありましたが、何かご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

●A委員

出羽中学校は旧本荘市の一部と岩谷町とがいわゆる合併して出来た学校であり、位置的にもあの場所が適当だということで建設されたようですが、この度の統合問題にあたっては、新たに校舎を建設するというような意見はなかったのかお伺いいたします。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

アンケートをとったところ8割は既存校舎を活用、2割が新設するという意見でありました。その結果を踏まえながら、懇談会の方針としては既存校舎を活用するという決定をさせていただきました。将来的にはどうなのかということになると、出羽中学校の改築、または新築等も視野に入れて考えなければならず、その際には当然、大内地域の中学校として場所の選定から議論されることと思います。

●A委員

先日、鳥海地域で小学校が統合されましたが、そのご父兄とお話する機会がありました。その中で、新しい学校はとにかくすばらしく、環境的には申し分ないということでありましたので、この機会に質問させていただいたわけです。ちなみに一番遠距離通学者はどれほどの距離になりますか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

一番遠距離になるのは羽広からで、28kmであります。

既存の校舎を活用するケースは東由利地域でもありました。東由利小学校が平成24年に開校となったわけですが、高瀬小学校と八塩小学校の統合でありました。そのときはどちらの校舎も活用できるということでありましたので、結果的に高瀬小学校を活用し、東由利小学校として開校しました。

校舎の新設ということになりますと、中学校規模では約20億円ほどかかる見込みであります。さらに適地に市有地がなければ、これに加えて用地買収も行わなければならない、5、6年の期間を要することになってしまうわけです。

現状では、出羽中学校、大内中学校ともに1学年1クラスであります。1学年2クラス以上でそれぞれが競い合える環境が望ましいと考えております。また部活動においても、少人数であれば種目が限られてしまい、実際に取り組みたいことができないという現状でありますので、早急に改善する必要性を感じておりましたこともありまして、既存校舎の活用となったわけです。

●B委員

懇談会で方向性が定まり、平成27年4月開校ということになったようですが、今後のタイムスケジュールはどのようになっている、いつ議会決定がなされるのでしょうか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

おおざっぱな話になりますが、まずなぜ平成27年4月からなのかということからご説明いたします。

委員はもちろん地域の皆様からは、できるだけ早く統合した方がよいのではという意見がありました。これは、大内地域以外の各地域では既に1地域1校という状況になっている現状があるからです。

ただし、準備には2年は必要と考えています。両中学校において当然、いろいろな違いがあります。カリキュラムの問題、学校行事、修学旅行にしても2年時に行う場合と3年時に行う場合があります。その辺の調整に時間がかかることと、懸案でありますスクールバスの運行計画につきましても、今後きめ細かく詰めていかなければならないという状況であります。それから財政的な面でも今後協議を行っていくわけですが、出羽中学校をリニューアルした上で開校をしたいと考えております。大規模改修を行うわけですが、外壁、防水、暖房関係等傷みの激しい部分を重点的に行いたいと考えておりまして、平成25年度に設計、平成26年度には工事を行い、平成27年度開校というスケジュールを想定しています。2校の統合により、新たな学校ができると市では考えております。校名、校歌、校章も2年間の準備期間で新たに決めていくという考えであります。こういったことから、準備には最低でも2年は必要と考えているところであります。

●B委員

懇談会で結論が出れば、もう決定ということで間違いないのでしょうか。今後、議会等どこかの場面において、懇談会の方針として出された出羽中学校を活用するということが覆ったりする可能性はないのでしょうか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

今後は町内会等広くご意見をお伺いしながら、教育委員会に諮り決定します。その後議会に諮り、学校設置条例改正等の手続きを行ったうえで最終決定がなされるわけでありす。ただ、懇談会等で皆様方にじっくり協議していただき方向性を出していただいたわけでありすので、それを尊重し基本方針として進めていきたいと考えています。

●B委員

いつの議会で決定するのでしょうか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

出羽中学校の大規模改修となると、その予算につきましては当然議会での承認が必要になります。早い段階で議員の皆様にはご説明し、ご理解を得た上で進めなければならないと考えております。それから手続き上の話になりますが、条例改正は来年の今頃、3月議会で行わなければならないと考えております。この度は岩城・松ヶ崎統合小学校の正式な校名と場所についての条例改正を行いました。これをもって最終決定ということになりますが、当然その前から様々なことを進めるわけですから、早い段階で議員の皆様には十分ご説明をして、最後の最後で決定が覆るということがないように進めていきたいと考えております。以上のことから平成26年3月議会において、形の上では正式に決定するということになります。

●A委員

岩城・松ヶ崎統合小学校の正式名称は「岩城小学校」でしたでしょうか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

この度の3月議会で「岩城小学校」という名称で条例改正の承認をいただき、正式決定しております。

●A委員

関連してですが、学区はどのようなになっていますか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

松ヶ崎地区の学区につきましては、現在も松ヶ崎小学校に通学している町内が大半ですが、本荘地区に近い2町内（浜三川、深沢）は以前から新山小学校に通学しています。「岩城小学校」へも現行どおりとなりまして、松ヶ崎小学校へ通学している町内が新しい岩城小学校へ通学し、その後は岩城中学校へ進学するということになります。

●A委員

大内地域の学区に関してですが、将来的に生徒数が減少していくだろうことは予想されるわけですが、このことを踏まえ、現在本荘地域の学区になっている赤田地区等を大内地域に変更という考えはなかったものですか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

将来的に赤田地区が大内へという具体的な議論はしておりません。ただ、ひとつの議論としては、北内越小学校が閉校するため、その学区の生徒たちは今年4月から新山小学校へ通学することになりましたが、その際どちらへ統合するのかということが課題であり、議論された経緯があります。岩谷小学校へは距離的に近かったんですが、これまで北内越小学校の卒業生は北中学校へ進学していたということもあり、時間をかけて懇談会等で協議した結果、これまでの行政区域どおりでいきたいという結論を出していただいたわけです。

ただ、今お話しされたとおり、松ヶ崎の子供たちが岩城小学校へ通学するというケースと同じように、将来的に学区の再編もあるということは考えられますが、現段階では具体的な議論はされておりません。

●A委員

参考までにお伺いしますが、県内では学区制がきちんと整備されているものでしょうか。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

基本的には学区を定めています。ただ、秋田市は比較的自由に学校を選択できる制度になっているようです。しかしこれは特徴のある学校、例えば部活動が強いとか、成績がよいとか、そういうところに偏ってしまうことが懸念されるため、由利本荘市では学区制をしいているところであります。

●C委員

今お話のあった学区制ですが、生徒数により統合ということになったときに、ハード面に重きを置かれているようですが、やはりどういう学校づくりをするのかといういわゆるグランドデザインとでも言うのでしょうか、そういうのに重きを置いて考えていただきたいと思います。実際、地域の特色を生かし等々言われますが、そういうことがおざなりにされているような気がします。統合になったあかつきには学校を核とした地域づくりをしていただき、例えば特徴のある学校づくりを行っていただき、学区外の人からも入学したいと思われる学校づくりを目指していただきたいと思います。

私事ですが、自身の子どもたちは大内地域の小学校に通わせましたが、中学校は秋田市の方向に通わせました。これは学校に不満があるのではなくて、競争するという環境ではなかったためであります。苦勞したことも多かったんですが、その中でもまれたり、長い通学時間では得るものがありました。皆さんは通学時間が遠くなる等おっしゃいますが、遠ければ遠いなりに得るものがあるように思います。マイナス面ばかりではなくて、通学時間を自分の中にどのように取り入れていくかというような、ソフト面を考えた学校づくりをしていただきたいと思います。

◎説明者（教育委員会主幹兼教育総務課 打矢課長）

この場でどのようなグランドデザインがあるかということはお話しできませんが、私個人的な見解ですが、大内中学校はスポーツが盛んであると感じますし、出羽中学校は毎年科学関係で優秀な成績を修めておりますので、それぞれ両校の特徴を残した形での学校づくりが必要と考えておりますので、今のご意見を教育長にも伝えたいと思います。

●佐々木(盛)会長

他にご意見がなければ、打矢主幹は他の公務のため退席されます。

次に平成25年度大内地域主要事業について支所から説明をお願いします。

○平成25年度大内地域主要事業の概要について説明（伊藤総合支所長）

○平成25年度大内地域主要事業について説明（各課長）

●佐々木(盛)会長

只今、ご説明ありましたが何かご意見ご質問はありますでしょうか。

●A委員

この会の必要性に疑問を持っている1人ですが、せっかくですのでお伺いいたします。

当時4年間で500億円もかけて芋川河川改修を行って、全国的にも珍しい桜並木として由利本荘市の期待の持てる観光資源になるのではないかと考えていますが、一方、加賀沢集落は1年に多いときは2、3回は冠水します。支所でできるだけでなく、県なり国なりも含め1日も早い改修計画を示していただきたいと思います。年1回地域振興局よりお見えになり話はしているようだが、さっぱり進展していないように見受けられますので、これから大内の農業を考えていく上で、総合支所長を先頭に職員一丸となってぜひとも努力していただければと思います。

◎説明者（伊藤総合支所長）

年1回河川改修の陳情はしている現状です。今現在の工事進捗状況は大内三川のところまでは拡張が進んでおり、用地買収は金崎まで進んでおります。そして現在は、麓のJR高架下の国道で度々冠水する箇所の改修工事が、平成25年度で完成する見込みです。今後に関してですが、現状年1回の会合だけでは足りないと感じております。関係機関とさらなる協議を重ね、河川上流部の早期改修について実現に向けた取り組みをしていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

●A委員

当時、岩谷の市街地の冠水被害の解消を図るということが、芋川河川改修の最初の目的となって始まった事業のようですが、これには様々な手法で国や県に要望し実現した経緯があります。この度の政権交代により公共事業の大幅な見直しもあるようですので、これを絶好の機会ととらえ、これまで以上に手をゆるめることなく進めてもらいたいと思います。

●佐々木(盛)会長

他にございませんか。

無いようですので、本日の協議会を閉会したいと思います。本日はありがとうございました。

4. 閉会